
あのひと

白兎 成

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あのひと

【Nコード】

N1784T

【作者名】

白兔 成

【あらすじ】

アタシには好みとは外れているけれど好きな匂いがある。
それはあのひとの匂い。
あのひとは今、どこにいるのかな。

ツンと鼻に付く香りが自宅のドアを開けると漂う。
アタシは健康至上主義だから、こんな匂いをさせて歩くことはないのだが。

「来てたんだ」

誰も座っていないソファアーベッドを見て、眩く。

人嫌いなアタシの家に勝手に上がりこんで、煙草を吸って、ソファアーベッドに寝転んで。

そんなことをするのはアタシの周りにあのひとだけ。

面倒くさいな、と思うけれど、あのひとはそんなアタシを無視するの。

それでも、アタシはあのひとから鍵を返してもらおうとは思わない。
い。

お休みの日にやってきたあのひとは私の前で堂々と煙草をスパスパ。

…まったく、副流煙って言葉を知らないのかしら。

それを止めないのはあのひとの煙草を吸う様がとても綺麗だから。
お遊び半分で煙で円を作ったり、口に含んだまま本を読んでいる
姿だったり。

全てが綺麗なの。

今日も眼を閉じるわ。

すると、あのひとのお気に入りのおライターがカチリと鳴る。

赤い炎があの一との顔を照らしながら煙草の先を舐める幻想的な

姿に見とれるアタシがいて。
漂う煙に思いを馳せる。

眼が覚めると匂いは霞んでくる。

すると、少しばかり寂しくなるの。
いつてしまったんだなあ、って。

そして気が付いてしまったわ。

「いやよ」

あなたが大好きなんだって。

そんなあなたはもうここにはいなくて。

そこにいるあなたが鮮明に見えるのはおかしいのよ。
アタシは泣いているんだから。

涙で視界がグチャグチャなのに見えるのは、

「思い出、なんかに、なっちゃ、いやよ」

あのひとが好きだった煙草は絶版になった。

あのひとが好きだった灰皿はペンキが剥げていく。

あのひとの煙は風がさらって無くなってしまった。

「いなくなっちゃ、やだよお」

アタシはあなたの歳をとうとう越しました。

まだ、貴方の香りを探して途方に暮れています。

あの煙草がアタシの健康を蝕むことは無くなりました。けれど、今でもあたしの心を蝕み続けています。

合鍵返せとか、家で煙草吸うなとかもう二度と言わないから、帰ってきてほしくて、私の眼を見てほしくて、笑ってほしくて。どんなに泣き叫んでも戻ってこないと知ってるのに。子供のように泣き続けています。

消えないで、消えないで
あのひとの匂い

あなたが置いて行った鍵はデスクの上に置いてあります。

アタシは思うのです。

人は煙のように薄れて消えていくことが定めなのでしょう。

アタシは嘆くのです。

伸ばしても、あのひとには届かず空を切る手。
そして感じなくなったあの匂いに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1784t/>

あのひと

2011年10月8日13時37分発行